

平成28年度 学校評価報告

28年度
学校教育努力点いき（生き・行き）がいにあふれる学びの舎
～確かな学力と豊かな心の育成から高まる自己肯定感～

実践のねらい

生徒一人一人が未来を切り拓くためには、知恵と自信を生む「確かな学力」と人間関係と毎日の生活に潤いをもたらす「豊かな心」が必要である。それらを育成していくことで生徒一人一人の自己肯定感を高め、一人一人が、いき（生き・行き）がいを感じるができる学びの発信基地となる学校を目指したい。そして、自ら人生を切り拓く生徒を育てていきたい。

実践のねらいに迫るための手だて

- ・「確かな学力」の育成
確かな学力は、「学習の習慣を身につけた生徒」、「教師の適切な指導」、「教師の指導力向上」が不可欠であると考え。そこで、3年間を見通した計画的な学習指導で学び方の支援や分かる授業の実践、自ら進路選択ができる生徒の育成を目指して実践していく。
- ・「豊かな心」の育成
豊かな心の育成には、「やさしさやたくましさ」、「感動体験」、「集団の輪づくり」が必要不可欠であると考え。そこで、心を豊かにする道徳指導や生徒が主役になる学校行事、ふれあいを重視した交流活動などを実践していく。

実践の内容

- ・「確かな学力」の育成をはかるために
学習指導においては、一人一人の生徒に適した指導ができるように、ティームティーチングを多く取り入れたり、個別やグループによる指導の場を増やしたりするようにした。また、始業前の学習環境を整え、朝の学習や読書の習慣を身につけさせた。テスト前の補習も積極的に行っていった。教師一人一人は、授業公開日を設定し、互いの授業を見合う場を設けることで指導力の向上に努めた。
- ・「豊かな心」の育成をはかるために
『ふれあいを大切とした交流活動』として、名古屋盲学校との交流活動、地域の高齢者の方たちとの対話交流会、心の教育講演会などを行った。仲間づくりによる心の一体感を育てるために、保健委員会によるピュアサポート活動や、生徒同士の人間関係を円滑にするために、生徒会を中心とする登校時のあいさつ運動、ハイタッチ運動などを行った。これらの活動を通して生徒たちに温かな気持ちを育み、仲間意識やいじめの撲滅、自己肯定感の高まりに努めた。また、子ども応援委員と協働して、自殺予防教育やストレスマネジメントに対する授業を行う試みをした。

成果と課題 （生徒468名・保護者388名・教職員25名の学校生活アンケートの結果）

「確かな学力」に関わる教育では、前年度同様、学校では落ち着いた学習環境の中で授業が行われていること、学校行事や学年・学級活動、部活動を通して、高い集団意識のもと楽しく充実した生活を送れていると多くの生徒・保護者・教職員が感じていることがわかった。しかし、約5人に1人の生徒が学習や授業に対して何らかの課題を抱えていることや特に2学年で将来や進路に向けての意識が不足していることもわかった。「豊かな心」に関わる教育では、心の教育や人権教育への取り組みについて、保護者、生徒ともにはわずかではあるが、前年度より高い評価を得ることができた。学校・学級が楽しいと言っている生徒は84%おり、学校行事や学年・学級活動、部活動は生徒にとっての「いきがい」となっている。スクールカウンセラーや子ども応援委員会などの充実による成果も大きいと考えられる。しかし、生徒の約3割は規則正しい生活を送れていないと自覚していたり、自分の考え方や生き方を振り返り、今の自分に満足感を得られていなかったりしているということも課題としてわかった。

学校評議員より

学校関係者評価としては、生徒たちのSNSの使用頻度の高まりが、学習や生活に影響しているのではないかと学校としても生徒や保護者に働きかけていく必要がある。とご指摘をいただいた。また、今年度も多くの生徒が「学校が楽しい」「行事や部活動に満足している」と言っていることは素晴らしく、今後も継続していただきたい。とご意見をいただきました。

来年度に向けて

多くの生徒が落ち着いた学習環境の中、楽しく学校生活を送っており、行事や部活動への評価は引き続き高い。来年度は、より道徳教育や生徒会活動を推進することや進路学習の充実をはかることから、今の自分に満足感が得られていない生徒数を減少させたい。そして、本校を「いき（生き・行き）がいのある学びの舎」により近づけるべく課題改善に取り組みたい。